

# 北九州

# EVENT TOPICS

## 座談会・予防

患者塾の「レギュラーメンバー」の医師による恒例の座談会。後半は「予防」をキーワードに、認知症や感染症対策などに話題が及んだ。

### 認知症

小野村さん 「予防」は認知症になりにくいというキーワードに、三つをやることで2次予防ができることを確認して、医療関係者はききす。予防という意味で、病院で実行してちゃんと目線を持って医療はワクチンがあります。個別的で包括療に当たっていかなく、現時点では認知症的なプログラムを一人

## 効くワクチンはまだない

## 個別・包括的対応で改善

ればいけない時代に入ってきたと思います。西野さん 現在1次予防として高血圧・糖尿・高脂血症の予防と管理があります。予防や治療をしっかり行っていけば認知症などにもなりにくいことが分かっていて、例えばある種の降圧剤を飲め

# 患者塾

医療の疑問や悩みを解決

ることができ、生活の喜びやその人らしさや尊敬を保つことができるとの接点でアルツハイ

### 感染症

小野村さん 一方で感染症も新しい時代に入ってきたのではないかと。伊藤さん 大人の感

## 注意はインフル以外にも

## 制御しやすい環境作りを

マイコプラズマ肺炎が前年の5倍のペースで発生しています。感染性腸球菌の発生が例

津田さん 新型インフルエンザに不安を感じています。小児科の現場ではノロウイルスも含めて嘔吐や下痢の感染性胃腸炎は毎冬インフルエンザの流行前に起こっていること

### 記者の一言

元日から始めた連載で、沖繩で里子5人を育てる牧師夫妻を取り上げた。実の親が育てられないなどさまざま事情を抱えて子供たちを里子となった。「子供たちが受けた心の傷はなかなか癒えない。それでも「心の再生」はできる。子供たちは今、一つ屋根の下で「家族の愛」というリハビリを受けている。【佐藤敬一】

### おのむら版 患者語・医者語辞典

## インフルエンザ (英語 influenza, flu)

患者語：いきなり高熱が出て頭痛や関節痛がひどくなるかぜの一種。最近、インフルエンザのウイルスをやっつける薬があるので、熱が下がればいつも通りの生活が可能。予防接種をしておけばかかる心配はない。

医者語：インフルエンザで高熱が出ないケースも少なくない。自己判断で経過を見るのではなく、特に流行期には、かぜ症状が出たらすぐに受診した方がいい。発症してから48時間以内なら抗ウイルス薬が効く。ただしウイルスを殺すのではなく、増殖を抑える効果しかない。解熱しても発症から7日間は安静が必要。また、予防接種は重症化を防ぐが、感染を完全に防ぐわけではないので注意が必要。

インフルエンザが流行しています。今年の特徴は、これまであまりかかっていない働き盛りの年代に感染者が目立つこと。理由は、かかっていないので免疫を十分に持っていないためです。「かぜくらいで仕事を休めない」と言って無理をすると、初期治療のチャンスを逸してしまいます。ご用心を。



津田さん



伊藤さん

### 出席された方々

- 西野憲史さん 西野病院(北九州市)▽平田敏治さん 福岡山王
- 重彦さん 北九州市立八幡病院▽津田文史朗さん 小児科
- 水巻町 小野村健太 司会
- 同戸屋町

質問は事務局へ  
〒807-0111 福岡県芦屋町白浜町2の10  
「おのむら医院」内  
電話093・222・1234  
FAX093・222・1235